

14 当クリニックにおけるフットケアの取り組み ～フットケアチームを立ち上げて 2年目の現状と課題～

借行会長野 駒ヶ根共立クリニック 透析室¹⁾ 同内科²⁾

平林里絵¹⁾ 園原由実子¹⁾ 今井典子¹⁾ 西村清子¹⁾ 平田聖文²⁾

【はじめに】

日本透析医学会によると、透析患者は、5年間で4割の方が亡くなり、その原因の3割を心臓と血管の合併症が占めているというデータがある。

借行会グループ（以下当グループ）は名古屋共立病院を中心に、透析専門クリニックを全国に16施設展開しており、2300余名の方が透析を受けている。当グループでは合併症を早期発見し、治療することが重要と考え、積極的に合併症対策に取り組んでいる。

足は全身の動脈硬化症を表していると言われ、PADの早期発見にフットケアが注目されている。

【目的】

当クリニックは、ベッド数36床、患者数105名の外来透析施設である。クリニックに通う患者の中に、足に熱傷や傷を繰り返し作り、なかなか治癒しない患者がいた。また、足病変の発見は患者の申し出に頼っている状況であった。そこで当クリニックでも、2008年4月にフットケアチームを立ち上げ、全患者の足の状態を把握し、外来透析施設で出来るフットケアにて、足を守り、QOLの維持を図ることとした。

【活動内容】

1. フットケアチームの立ち上げ
2名の看護師が名古屋共立病院にて、フットケアの実技や炭酸泉についての研修を受け、中心となってチームを立ち上げた。
2. 足管理表による観察
当グループで使用している足管理表を見直し、2008年4月に全患者105名の足の観察を行った。（図1）写真撮影を行い、処置、及び定期的なフォローが必要な患者をピックアップした。
3. 定期観察・炭酸泉療法の開始
ピックアップした患者の中から処置、定期的な観

察、炭酸泉療法（写真1）を行った。また経過を把握する為、フットケアパスを作成し、運用した。



図1.



写真1.

4. 勉強会の実施
スタッフへの勉強会を4回開き、PADに関する知識の向上を図った。

平林里絵(看護師) 借行会長野 駒ヶ根共立クリニック
〒399-4117 長野県駒ヶ根市赤穂 4269 Tel.(0265)82-5022

【結果】

足の観察により、8割の患者に何らかの異常が認められた。1年間で52名の患者に、観察及び何らかの処置を行った。

主な結果としては、4割近くの患者に白癬が見つかり、治療を開始した。そのうちの約半数は糖尿病患者である。約3割の患者に冷感、2割強の患者にしびれがあった。冷感やしびれもやはり糖尿病患者が多く、4割を占めていた。冷感としびれ両方ある患者は1割、冷感・しびれ・白癬全てある患者は4名であった。(図2)

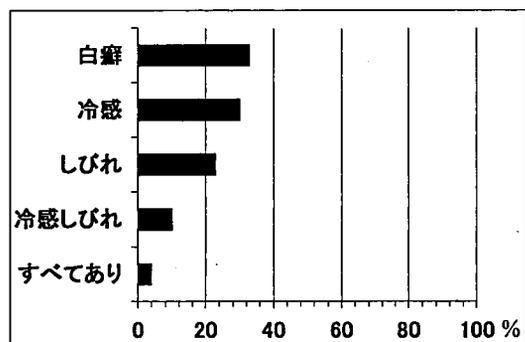


図2

この他に1割の患者に巻き爪があり、切り方の指導や処置を行った。

血管脈派検査や、下肢血管エコーによりPADと診断された患者に炭酸泉を開始したところ、「半日は温かさが続くよ」、「気持ちが良いから家でも毎日バブ浴をするようになった」などの声が聞かれた。炭酸泉は、6名より開始し、2009年10月現在14名の患者が施行している。

また、定期的に足を観察した患者から、足を見て欲しいと申し出があるようになった。

【2年目の現状】

昨年度1年間の活動を振り返ると、多くの問題点が出てきた。

- 2008年4月の足観察日に異常がなかった患者は、継続的な観察を行わず、啓蒙も不足した。
- 係りの2名の看護師を中心に、足観察や処置を行った為、他のスタッフが関わる機会が少なくなってしまった。
- 月に一度、足観察日を設けていたが、他の業務が忙しく、全く観察出来ない月が発生した。
- 情報共有システムが不十分だったため、患者

の状態が係に伝達されず、経過を把握出来ないことがあった。

- 炭酸泉は、コストがとれない上、手間がかかるため、積極的に勧めていきにくい雰囲気があった。
- フットケアの効果は短期間では表出されない為、モチベーションが上がらない。など、多くの問題が出てきた。

【今後の課題】

先に述べた問題点を踏まえ、

- ・今後、全てのスタッフが患者の足の状態を把握する手段と手技を習得し、情報の共有を図ること
- ・スタッフ・患者とも「足を大切にする」という意識を高め、患者が自分の足で長く通って来られるよう、啓蒙活動をすること と考える。

【考察】

足病変を早期発見するためには、その時異常がなくても足観察をスクリーニングで継続していくこと、必要な患者にフットケアを行うことが重要と考える。それが患者のQOLの維持につながり、看護師にもできる合併症対策となると考える。

【参考文献】

- 1) 日本フットケア学会他 (2006) 『はじめよう！フットケア』日本看護協会出版会
- 2) 日本フットケア学会(2006) 『フットケア』医学書院
- 3) 羽倉稜子(2006) 『ナースがおこなう糖尿病フットケア』南江堂